

生育は進み、葉色が濃くなってきた！ 遅れずに作溝・中干しを実施！

平成 15 年 6 月 20 日
やまがたこだわり安心米推進運動本部

1 生育概況

6月20日の農業普及課や農業試験場の生育調査によれば、草丈は平年より長く茎数は並みからやや多いが、地域やほ場による生育の差が大きい。特に庄内地域で茎数が多い傾向となっている。葉数は平年より多く、生育は平年より1～2日程度進んでいる。葉色は平年より濃い。土壌中アンモニウム態窒素の残存量は平年並みからやや少ない。

中山間部は平坦部と同様の傾向で、平年より4日程度生育が進んでいる。また、直播も、移植と同様の傾向であり、平年より3日程度生育が進んでいる。

2 当面の技術対策

生育は平年より進んでおり、葉色も濃くなってきたことから、品質と食味の高い米（整粒歩合80%以上、玄米タンパク含有率7%以下）を生産するために、適正な m^2 あたりもみ数をめざして、以下の点に留意して当面の技術指導に当たる。

（1）作溝・中干しの徹底

平坦部では、8葉期を過ぎて無効分けつ期となっており葉色が濃くなってきたことから、遅れずに作溝・中干し作業に入り、無効分けつの発生の抑制を図る。作溝の本数は通常3～5mに一本通すが、茎数が多い場合は速やかに作業を実施するとともに、作溝の本数を多くして小ヒビが入る程度を目安にして行い、適正な穂肥ができるよう生育を調節する。なお、作溝・中干し作業は遅くとも7月10日頃までに終了する。

茎数の少ないほ場では、8.5葉期を過ぎると無効分けつ期に入ることから、作溝・中干し作業が遅れないよう計画を立てる。

中山間部・山間部では、平坦部よりも生育が進んでいることから、8葉期を過ぎたら直ちに落水して作溝・中干しを行う。

（2）病虫害防除

葉いもちについては、補植苗での発生が確認されたこと、および6月12日頃に梅雨入りしてから夜温が高く感染しやすい日が続いていることから、ほ場を良く観察して早期発見に努め、発生が認められたら発生初期に防除する。

カメムシは今年も発生が心配されることから、農道・畦畔などの草刈りの徹底を図るとともに、周辺部（転作休耕田等）の雑草対策について地域ぐるみで話し合いを進め、耕耘作業等により生息密度の低下に努める。

（3）直播栽培

直播栽培においても生育が順調に進み、茎数の多いほ場が広く見られることから、 m^2 当たり本数の制御と倒伏防止を図るために、速やかに落水して作溝・中干し作業に入る。

いらない農薬は使わない！ 使う場合は適正に！ 使ったら記帳する！